

スーパーマーケット景気動向調査

2025 年 9 月調査結果（8 月実績）
（2025 年 9 月 24 日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査 DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比(%)に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感 DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比(%)に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

9月調査（8月実績）結果概況

米販売落ち着き現状、見通し共に悪化

8月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断 DI の現状判断は前月から-4.0 の 46.1、見通し判断が前月から-3.2 の 42.6 となり、共に悪化をみせた。

経営動向調査では、売上高 DI がプラス圏を維持しているものの、前月からは大きく下落。収益 DI も前月から下落し、マイナス圏となった。生鮮品仕入原価 DI、食品仕入原価 DI は、前月から小幅に下落したものの高水準を維持しているが、客単価 DI と来客数 DI は前月から下落し、来客数 DI はマイナス圏での推移となった。

カテゴリー動向調査では、水産 DI を除くすべてのカテゴリーで前月より下落した。前年の南海トラフ地震臨時情報発表や台風接近による備蓄需要の反動を受けたカテゴリーでは下落幅が大きくなった。特に一般食品 DI は、米の販売が落ち着き、単価上昇効果が一巡したことも加わり、大幅な下落となった、一方、猛暑による調理敬遠志向などを背景に、惣菜 DI は二桁プラス圏を維持している。（カテゴリー別動向に詳細掲載）

景況感調査は現状、見通しともに悪化し、特に見通し判断は低水準での推移が続いており、先行きへの不透明感が強い。（長期傾向は P11 参照）

7月に続き8月も記録的な猛暑を受け、夏物商材が好調。お盆時期の販売も順調に推移した店舗が多かったが、前年の災害に備えた特需からの反動もあり、数字上、前年同月とは全く異なる結果となった。新米も高単価傾向だが高騰効果も一巡し、今後は売上高前年同月比の鈍化が予想される。食品の値上げ傾向は継続しており、前年の実績だけにとらわれず、足元の消費基調を見誤ることのないよう慎重な判断が求められる。

現状判断

景気判断DI
当月：46.1 (-4.0)
前月：50.1

消費者購買意欲DI
当月：43.8 (-1.9)
前月：45.7

周辺地域 競合状況DI
当月：44.5 (-1.0)
前月：45.5

店舗周辺地域 景気判断DI
当月：47.6 (-0.4)
前月：48.0

見通し判断

景気判断DI
当月：42.6 (-3.2)
前月：45.8

消費者購買意欲DI
当月：43.0 (-0.8)
前月：43.8

周辺地域 競合状況DI
当月：42.1 (-1.2)
前月：43.3

店舗周辺地域 景気判断DI
当月：46.4 (+0.2)
前月：46.2

経営動向調査 経営状況

売上高DI
当月：2.6 (-10.5)
前月：13.1

客単価DI
当月：10.7 (-4.8)
前月：15.5

来客数DI
当月：-8.7 (-7.9)
前月：-0.8

収益DI
当月：-4.2 (-8.8)
前月：4.6

販売価格DI
当月：20.4 (-4.0)
前月：24.4

生鮮品仕入原価DI
当月：17.4 (-3.1)
前月：20.5

食品仕入原価DI
当月：20.1 (-5.2)
前月：25.3

カテゴリー動向

青果DI
当月：-1.6 (-7.1)
前月：5.5

水産DI
当月：1.1 (+0.6)
前月：0.5

畜産DI
当月：4.2 (-0.1)
前月：4.3

惣菜DI
当月：13.2 (-2.6)
前月：15.8

日配DI
当月：4.0 (-7.4)
前月：11.4

一般食品DI
当月：-5.2 (-23.3)
前月：18.1

非食品DI
当月：-16.7 (-12.4)
前月：-4.3

※DI 値は前年同月との比較／ () 内は前月 DI からの変化

結果詳細 I. 経営動向調査 (2014年1月～)

1. 売上高 DI

プラス圏を維持も前月から急落

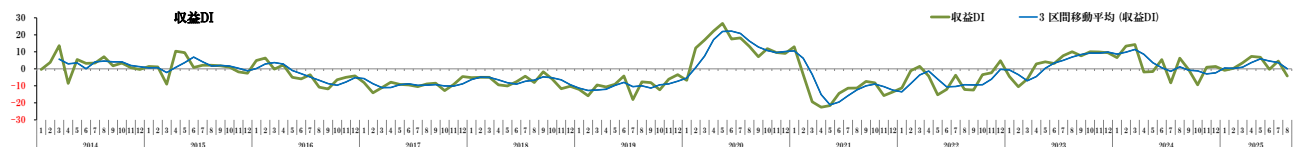
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高 (前月)	1.8	15.2	24.4	45.7	12.8	13.1
売上高 (当月)	4.2	25.7	32.6	30.6	6.9	2.6



2. 収益 DI

前月から下落し、マイナス圏に

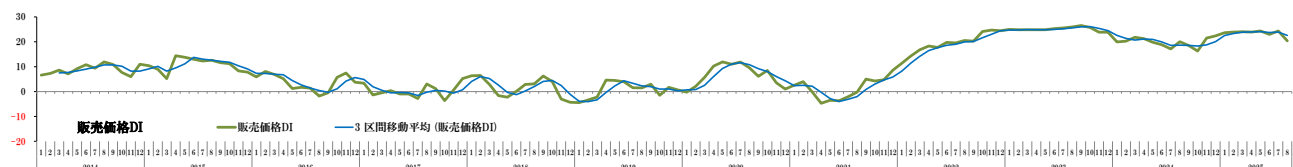
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益 (前月)	4.3	20.9	33.7	34.4	6.7	4.6
収益 (当月)	8.4	29.4	37.1	21.0	4.2	-4.2



3. 販売価格 DI

前月から下落も、二桁プラス水準で推移

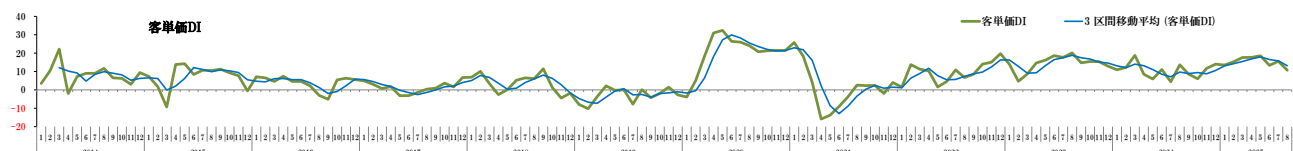
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格 (前月)	0.0	0.6	12.9	74.8	11.7	24.4
販売価格 (当月)	0.0	2.1	20.6	70.9	6.4	20.4



4. 客単価 DI

前月から下落も、二桁プラス水準を維持

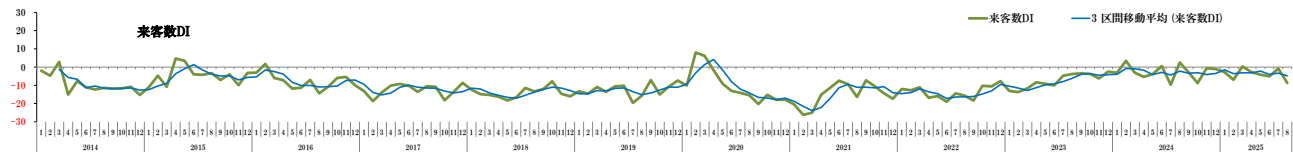
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価 (前月)	0.6	6.7	29.9	55.5	7.3	15.5
客単価 (当月)	0.7	11.2	35.0	51.0	2.1	10.7



5. 来客数 DI

前月から下落し、マイナス幅を拡大

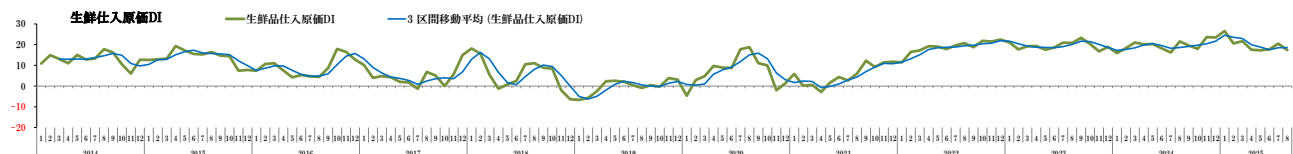
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	4.3	26.8	39.6	26.2	3.0	-0.8
来客数 (当月)	7.7	38.5	36.4	16.1	1.4	-8.7



6. 生鮮仕入原価 DI

前月から下落も、二桁プラス水準で推移

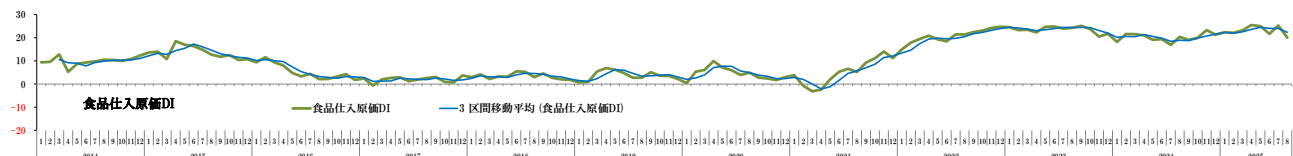
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	0.0	5.6	18.1	65.0	11.3	20.5
生鮮仕入原価 (当月)	0.7	7.2	25.4	55.1	11.6	17.4



7. 食品仕入原価 DI

前月から下落も、52 か月連続プラス圏

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	0.0	2.5	13.2	64.8	19.5	25.3
食品仕入原価 (当月)	0.7	6.6	19.7	57.7	15.3	20.1

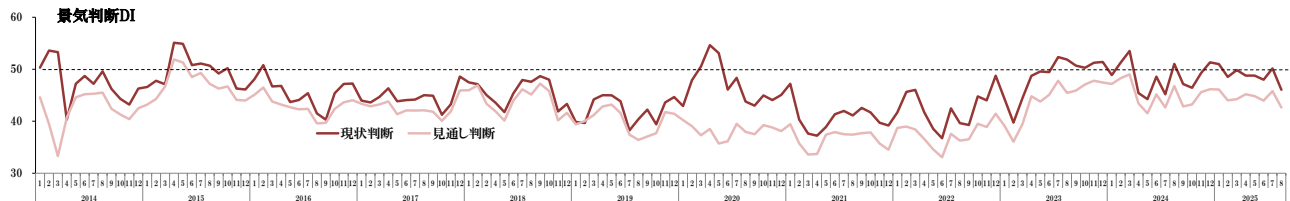


Ⅱ．景況感調査（2014年4月～／周辺地域景気判断 2010年4月～）

1. 中核店舗景気判断 DI

現状・見通し判断共に悪化、現状判断が 50 を割り込む

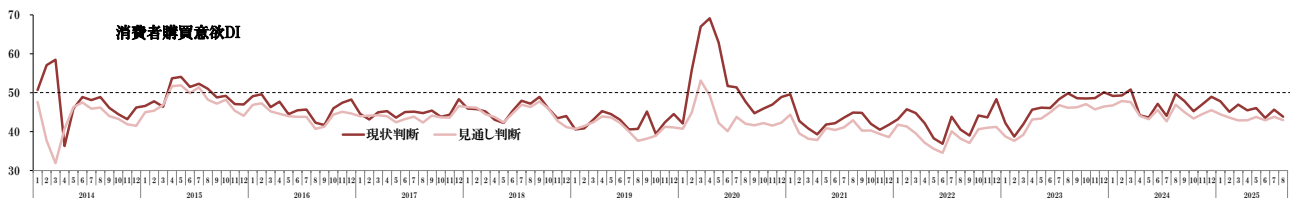
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景気判断（前月）	0.6	19.2	59.9	19.8	0.6	50.1
【現状】景気判断（当月）	1.4	26.0	59.6	13.0	0.0	46.1
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景気判断（前月）	1.8	24.0	63.5	10.8	0.0	45.8
【見通し】景気判断（当月）	2.1	32.9	57.5	7.5	0.0	42.6



2. 消費者購買意欲 DI

現状・見通し判断共に小幅な悪化

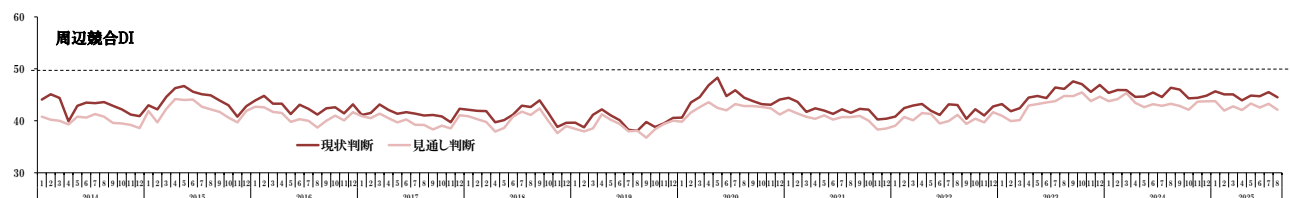
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲（前月）	0.6	24.6	66.5	8.4	0.0	45.7
【現状】購買意欲（当月）	1.4	29.5	61.6	7.5	0.0	43.8
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲（前月）	1.2	27.7	65.7	5.4	0.0	43.8
【見通し】購買意欲（当月）	0.7	33.6	58.9	6.8	0.0	43.0



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状・見通し判断共に小幅な悪化

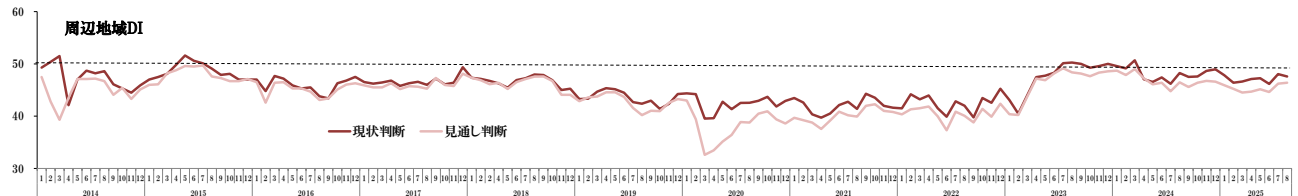
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況（前月）	1.8	17.4	77.8	3.0	0.0	45.5
【現状】競合状況（当月）	2.7	18.5	77.4	0.7	0.7	44.5
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況（前月）	3.0	22.8	72.5	1.8	0.0	43.3
【見通し】競合状況（当月）	4.1	24.7	70.5	0.0	0.7	42.1



4. 中核店舗周辺地域景気判断 DI

現状・見通し判断共に前月水準で推移

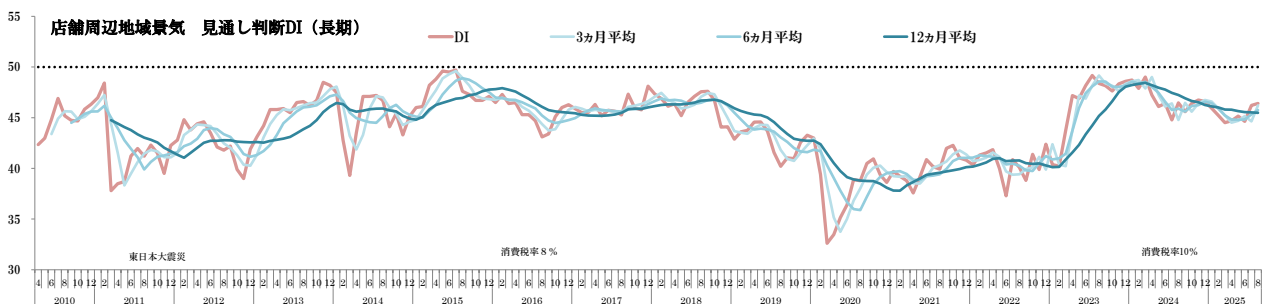
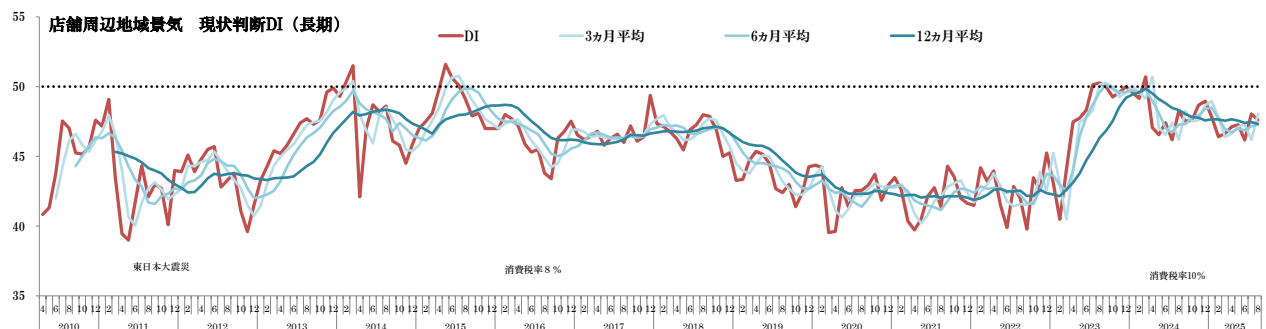
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気 (前月)	0.0	12.7	82.5	4.8	0.0	48.0
【現状】地域景気 (当月)	0.0	13.7	82.9	2.7	0.7	47.6
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気 (前月)	0.0	18.8	77.6	3.6	0.0	46.2
【見通し】地域景気 (当月)	0.7	17.8	77.4	3.4	0.7	46.4



・中核店舗周辺地域景気判断 DI 長期傾向 (2010 年 4 月～)

周辺地域景気判断 DI は 2011 年 3 月の東日本大震災以降低迷が続いたが、12 年 11 月から 16 ヶ月にわたる改善が続き、14 年 3 月は現状判断 DI が 51.5 を記録。14 年 4 月の消費税率 8% 引き上げにより大幅に悪化するも徐々に持ち直し、15 年 5 月には現状判断 DI は 51.6 に達し、調査開始以来の最高値を更新した。その後 15 ヶ月間にわたり悪化傾向は続き 16 年 9 月には、現状判断 DI は 43.4 まで低迷した。

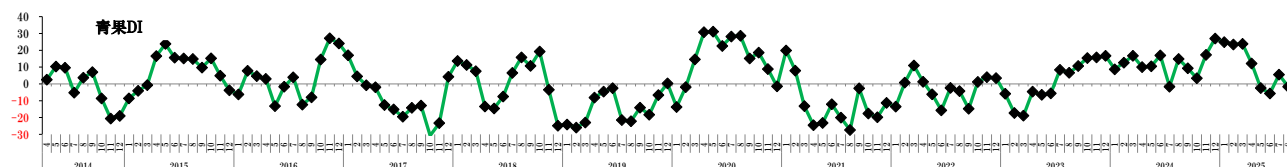
以後方向感の乏しい推移が続いたが、18 年の後半から悪化傾向が顕著となり、19 年 7 月には現状判断 DI は 42.3 まで低下した。21 年は、感染状況により上下する動きとなった。22 年は、感染が再拡大した 7 月以降に大幅な改善をみせた。23 年も改善が続き、7 月には判断の分かれ目である 50 を突破、その後も高水準を維持した。24 年前半に悪化したものの、後半は緩やかな改善傾向が続いた。25 年に入りダウントレンドが続いているが、夏ころにかけてやや持ち直した。



Ⅲ. カテゴリー別動向

1. 青果 DI：-1.6（やや不調）

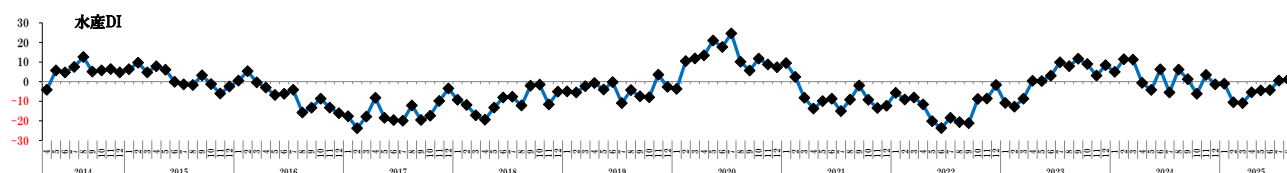
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果（前月）	4.4	21.4	32.1	32.1	10.1	5.5
青果（当月）	7.9	30.9	27.3	27.3	6.5	-1.6



青果相場は高温、雨不足などの影響を受け一部高値で推移、販売数量が伸び悩み、やや不調となった。8月も気温が高く、涼味、季節野菜(オクラ、みょうが、しょうが等)は好調。サラダ関連は好調とする店舗、トマトや葉物の品質低下と高値で伸び悩んだ店舗が分かれた。じゃがいも、たまねぎなど土物類は入荷量減少もあり、不調となった地域が多い。一方で果物類は好調に推移し、ぶどうやスイカ、メロン、輸入果物ではキウイフルーツ、またカットフルーツも引き続き好調に推移した。

2. 水産 DI：1.1（やや好調）

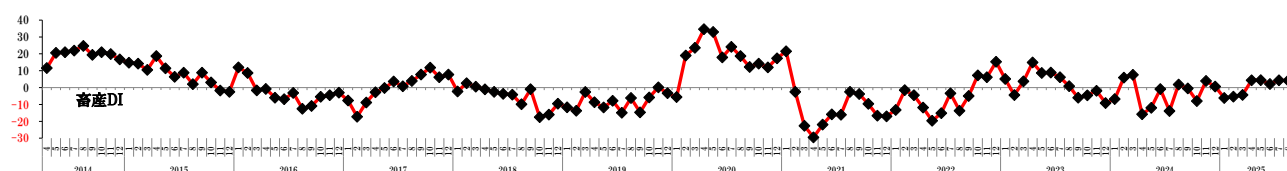
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産（前月）	6.4	27.6	30.1	29.5	6.4	0.5
水産（当月）	8.0	24.6	31.9	26.1	9.4	1.1



生サンマが近年としては豊漁の部類でサイズも大きく、売上を大きく伸ばした。お盆時期を中心にマグロなど刺身類の販売が好調。猛暑により、海藻類などサラダ用商材の動きがよかった。今年は「土用の二の丑」があったウナギだが、好調となった店舗がある一方で、単価が下落し前年並みに推移した店舗もみられた。生カツオは不漁で不調とする声が多く、貝類、干物類、魚卵・塩干は厳しい状況が続いた。

3. 畜産 DI：4.2（やや好調）

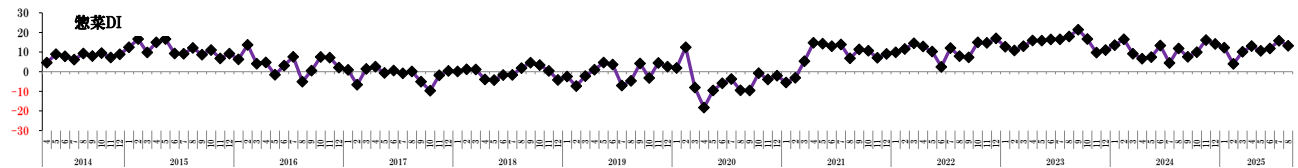
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産（前月）	4.5	25.0	30.1	29.5	10.9	4.3
畜産（当月）	4.3	21.0	37.7	27.5	9.4	4.2



相場の高騰傾向が続く中でも、お盆時期は販売が好調に推移したという店舗が多い。それ以外の時期は、牛肉の不振と豚肉・鶏肉への需要シフトの傾向が継続している。牛肉は国産、輸入共に高値推移が続き、一般的に苦戦傾向だが、雨が少なく休日を中心にBBQ、焼肉需要は好調に推移した。豚肉は国産の価格高騰が続き、比較的安価な輸入豚が好調。鶏肉は価格高騰が続くなかでも販売が堅調となった。ハムなどの加工肉にはやや回復傾向がみられた。利益確保が難しいとのコメントが多くみられた。

4. 惣菜DI：13.2（好調）

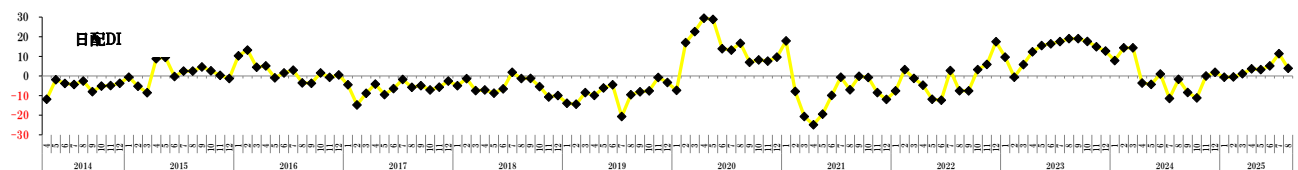
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	0.6	9.0	27.1	52.9	10.3	15.8
惣菜（当月）	1.4	15.2	27.5	40.6	15.2	13.2



コメ価格の高止まりにより、弁当・おにぎりなど米飯類が引き続き好調に推移した。猛暑により、家庭での調理を避ける傾向を追い風に、揚げ物・てんぷら類は堅調に推移。サラダ関連や冷惣菜の動きも良い。夏休みの昼食向けも好調に推移した。一方で寿司類は、お盆時期では予約販売を含め比較的好調に推移したが、それ以外は生食を敬遠してか動きが鈍かったとの声も。焼鳥や餃子などのおつまみ関連、焼きそばなど軽食関連も好調とのコメントが多い。

5. 日配DI：4.0（やや好調）

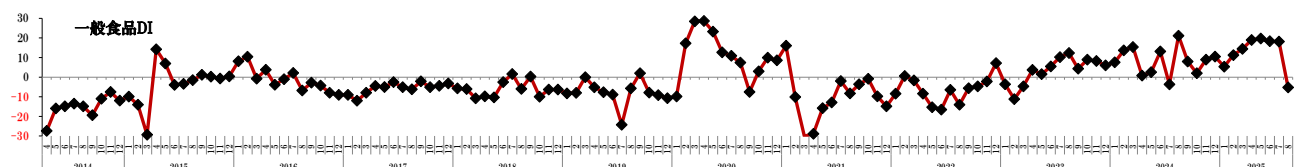
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	1.9	12.7	34.2	40.5	10.8	11.4
日配（当月）	4.3	18.0	41.7	29.5	6.5	4.0



猛暑の継続により、アイス・氷菓やチルド飲料、涼味麺の好調が継続しているが、一部地域では前年との気温差により伸び悩んだ店舗もみられた。鶏卵は価格高騰が続き好調に推移、売上を牽引した。和日配では、コメ品薄解消もあり納豆や梅干、漬物、ところてんや豆腐など涼味・即食・塩分補給関連の動きがよい。洋日配では乳酸飲料の不振を指摘するコメントがみられ、価格改定のあったチーズ類は伸び悩んだ店舗が多い。パン類は前年台風接近による特需があった反動がみられた。冷凍食品は冷凍野菜を中心に引き続き堅調に推移した。

6. 一般食品：-5.2（やや不調）

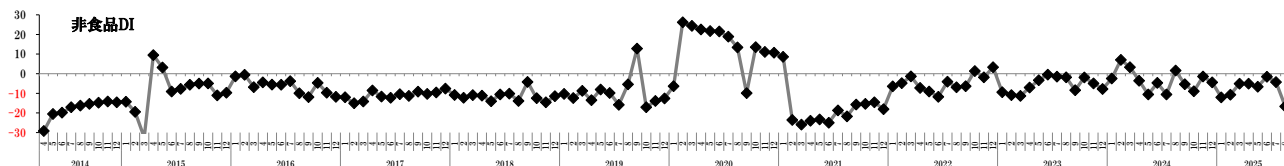
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	1.3	10.3	24.4	42.9	21.2	18.1
一般食品（当月）	9.4	33.1	31.7	20.9	5.0	-5.2



米は、備蓄米の入荷も増えて品薄感が解消し、特に前年品薄となった店舗を中心に好調に推移する一方で、売上に落ち着きがみられはじめたとのコメントも。コメ代替品としてのレンジ米飯、パスタ、インスタント麺類などには、前年の「南海トラフ地震臨時情報」発表による備蓄行動の反動を大きく受けた店舗もみられた。猛暑により素麺、つゆなど涼味商材、飲料やビール・サワー類が好調、コーヒー類の動きもよい。一方でスープ類、油、洋風調味料は伸び悩んだ。

7. 非食品 DI：-16.7（不調）

回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	8.6	34.2	30.9	18.4	7.9	-4.3
非食品（当月）	23.7	38.5	23.0	10.4	4.4	-16.7



前年の南海トラフ地震臨時情報発表や台風接近に備えた、ガスボンベや乾電池など防災関連用品の特需からの反動も大きく影響し、不振となった地域が多かった。一方、猛暑の影響で日焼け止めや制汗剤、保冷剤、熱中症対策商品の動きもよい。衣料用洗剤が好調な一方で台所関連商品が不振とのコメントが多い。殺虫剤・虫ケア用品は高すぎる気温により伸び悩んだとのコメントもみられた。紙製品は値上げ後に低迷している店舗が多い。ドラッグストアやホームセンターなどとの競合激化を指摘するコメントが引き続き多くみられた。

カテゴリー別 DI による好不調判断

かなり好調： ～ 20 好調： 20 ～ 10 やや好調： 10 ～ 0
 やや不調： 0 ～ -10 不調： -10 ～ -20 かなり不調： -20～

2025 年 9 月調査（8 月実績）キーワード TOP3

1. 猛暑による夏物商品好調
2. 前年「南海トラフ地震臨時情報」、台風接近による備蓄需要の反動
3. お盆時期の販売が好調

（参考）2024 年 9 月調査（8 月実績）キーワード TOP3

1. 防災意識の高まり、備蓄需要
2. 米不足報道による欠品の長期化
3. 相次ぐ台風の影響

スーパーマーケット景気動向調査 集計数

8 月実績速報版 146 社
 7 月実績確報版 167 社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 tokei@super.or.jp